



第2会場●2F 自由研修室

■司 会／眞鍋 幸一 愛媛県年輪塾 塾生
上野 知彦 福岡県教育庁北筑後教育事務所 主任社会教育主事

分科会の進め方

10:45~10:50

1 「大豆100粒運動」第2弾

～学校と農家と消費者をつなぐ企業発の食と流通の総合的学習:その継承と展開～

10:50~11:20

池田 龍二(佐賀県佐賀市) ショッピングシティ・アルタ 販売促進企画室長

現在8年目、取引しているメーカー企業、農家、健康づくりを担当する行政など関係機関・団体の協力を得て「協働」事業に育っている。「食料自給」や「食の安全」などの観点の重要性に気付き、辰巳芳子氏が提唱する「大豆100粒運動」に注目して、アルタが実践的に継承した。第1回の発表当初は、主として食文化に重点を置いたが、現在では、農業、流通、製造、販売を学ぶ総合的学習の企画に発展した。主たる対象は小学生（現在は佐賀県内15小学校に拡大した）である。1年を通して大豆の生産の過程を学び、加工や栄養の課題を学び、最後は、販売・流通のプロセスを体験的に学んでいる。

2 発酵食文化による地域自給の普及と

田んぼアートの実践を起点としたスローフードのむら・まち交流

11:25~11:55

白木 美和(山口県山口市) すろーふーどらいふ山口ネット・和(のどか) 代表

平成14年、3人の主婦が子どもの「食」環境について学習を始めたことからスタート。「すろーふーど交流の家・母屋（ままや）」を主要拠点として、地産地消や食の現場に触れてもらうことを目的に二つのプロジェクトを展開している。第1は、発酵食文化に注目したみそづくりプログラムで、参加者の家庭1年分の味噌を造りながらの交流である。第2は、「田んぼアート」。米が出来るまでのプロセスを楽しく体験してもらうことを目的に田植え、稲刈り、はせかけ、餅つきなど耕作の季節にそった「むら・まち交流」プログラムで、高校生や地域ぐるみの参加が実現している。

3 「がっこう」づくりから中山の活力を!

～休耕田も、おしゃべりバスも、高齢者の社交場も、若い力を循環させて地域を支える～

12:00~12:30

横田 光貴(高知県安芸郡安田町中山地区) 安田町ふるさと応援隊

小倉 祐輔(高知県安芸郡安田町中山地区) NPOスマイルひろば

中山地区は学校の統廃合と同時に活力を失いつつあった。活力を取り戻すには、学校を取り戻すことが近道である。廃校舎を改築して「集落活動センターなかやま」を完成させ、「新しいがっこうづくり」を開始した。発想は広がり、休耕田耕作も進め、「おしゃべりバス」も実現した。実働は「中山を元氣にする会」が受け持った。

「がっこう」は、地域内に留まらず、県内の大学生や企業をはじめ、町に関わりのある人や資源を素材として、ワークショップや体験学習を展開している。平成26年度は9回の実施、小学生～高校生計65人の参加を得た。

「がっこう」事業を通じて、企業と地域とのつながりも強まった。財源は「地元産品」の売り上げなどをあてている。